

三次選定における評価方法等について

1. 三次選定の概要

三次選定では、二次候補地を対象に、これまでの評価結果に加え、現地踏査の実施、概略施設配置図の作成等を踏まえたうえで、各候補地を比較評価し、3箇所程度に絞り込みを行う。

【三次選定の手順】

- ①二次候補地の現地踏査
- ②二次選定までの評価項目について、現地踏査結果を踏まえ再評価
- ③概略施設配置図の作成
- ④概略施設配置図に基づき、建設適性或経済性を評価
- ⑤各評価結果に基づき、3箇所程度の三次候補地に絞り込み

2. 評価項目の設定

三次選定における評価項目は、「日向東臼杵広域連合次期広域最終処分場用地選定」において選定された二次候補地（以下、候補地という。）に対して、二次選定までの評価項目の再評価および現地の状況や概算事業費などの視点から総合的に評価するため、以下の視点で評価を行う。

■三次選定における視点

- (1) 立地特性（候補地の地形条件や道路までの距離等の立地に係る条件かどうか）※
- (2) 自然環境（地域を取り巻く地勢や天候といった自然に関連する条件かどうか）※
- (3) 社会・生活環境（地域の土地利用状況や人口、生活環境に係る条件かどうか）※
- (4) 防災（地形・地盤等に起因する自然災害での影響があるかどうか）※
- (5) 建設適性（施工・建設面で最終処分場の候補地として適しているか）
- (6) 経済性（建設費用が安価であるか）
- (7) 用地取得の見込み（用地取得について課題があるか）

※ 二次選定までの評価項目

上記の視点に基づき設定した評価項目を表1に示す。

表 1 三次選定の評価項目

分類	評価項目	内容	二次選定の 評価項目	現地踏査 に基づき 評価	施設配置図 に基づき 評価
立地特性	地形（谷筋勾配）	三次評価の建設適性（造成の難易度）でより詳細に評価する。	○		
	地形（斜面勾配）	三次評価の建設適性（造成の難易度）でより詳細に評価する。	○		
	搬入道路	三次評価の建設適性（搬入道路）でより詳細に評価する。	○		
	運搬距離	候補地から清掃センターまでの運搬距離を評価する。	○		
	積雪	候補地の積雪について評価する。	○		
自然環境	植生自然度	群落の自然性がどの程度残されているかを示す一つの指標である植生自然度を評価する。	○		
	希少野生動物・植物	希少動植物に係る既知の生息地・生育地ではないことを評価する。	○		
社会・生活環境	土地利用状況	現況の土地利用状況を航空写真や現地調査で判断し候補地の現況状況について評価する。	○	○	
	農業振興地域（農用地区域以外）	農業振興を図るべき地域であるものの、農地の集団性が低い、土地改良事業が実施されていない、市街化が著しい等の理由から農用地区域の指定を受けていない区域に該当するかを評価する。	○		
	公共施設	静穏な環境を保全する必要がある公共施設（学校、保育園、幼稚園、病院、福祉施設、図書館）から候補地までの距離を評価する。	○	○	
	周辺民家	候補地からの最も近い民家への距離を評価する。	○	○	
	水道水源	候補地から下流側の水道水源までの距離を評価する。	○	○	
防災	土砂災害（がけ崩れ、土石流、地すべり）等によって災害が発生するおそれがある地区に該当するかを評価する。	○			

分類	評価項目	内容	二次選定の 評価項目	現地踏査 に基づき 評価	施設配置図 に基づき 評価
	浸水想定区域	洪水はん濫・津波時に想定される浸水区域に該当するかを評価する。	○		
建設適性	造成の難易度	概略施設配置検討図に基づき造成の難易度について評価する。		○	○
	地質	地質・地盤について最終処分場の建設に課題がないか評価する。		○	○
	搬入道路	幹線道路から埋立地までの搬入道路の延長及び取付の難易度について評価する。		○	○
	幹線道路	アクセス道路となる幹線道路の幅員や周辺の状況から拡幅の必要性、支障物等について評価する。		○	○
	施工性	建設時において、工事期間が長くなる、あるいは難易度が高い施工となる要因があるかについて評価する。		○	○
	埋立容量の確保	候補地における埋立容量の確保の容易性や候補地内における埋立地周辺の敷地状況について評価する。			○
経済性	概算工事費	概略施設配置検討図から概算工事費を算出し評価する。			○
	用地取得費	用地の取得費用について評価する。			○
	事業費リスク	その他事業費を増加させる要因の有無について評価する。		○	○
用地取得の見込み		用地の取得にあたっての難易度を評価する。			○

3. 評価基準の設定

評価については評価項目ごとに◎、○、△で評価を行い、各項目の評価結果を総合的に判断して、三次候補地を選定する。

3.1 二次選定までの評価項目

立地特性、自然環境、社会・生活環境、防災については現地踏査ならびに概略施設配置図の検討結果を踏まえた上で、二次選定の評価基準を用いて再評価する。

3.2 建設適性

(1) 造成の難易度

候補地の造成の難易度について評価する。評価にあたっては、概略施設配置図に基づき、造成土工量、急傾斜地の有無などを評価し、造成にあたって課題がないものを◎、課題が少ないものを○、課題が多いものを△として評価を行う。

- ◎：処分場の造成において課題がない
- ：処分場の造成において課題が少ない
- △：処分場の造成において課題が多い

(2) 地質

候補地の地質・地盤について評価する。評価にあたっては、資料収集、現地踏査を行ったうえで、地盤の安定性、地下水・湧水の有無、地滑りの可能性等から設計・施工上の課題の有無を整理する。候補地の地質・地盤において課題がないものを◎、課題が少ないものを○、課題が多いものを△として評価を行う。

- ◎：施設建設において課題がない
- ：施設建設において課題が少ない
- △：施設建設において課題が多い

(3) 搬入道路

概略施設配置図に基づき搬入道路の延長を算出し、搬入道路の設置において、傾斜地での整備や橋梁設置の必要性等の課題がないか評価する。搬入道路が 500m 以下かつ、搬入道路の設置にあたり課題がない場合に◎と評価する。また、搬入道路が 500m 以下、かつ取付に課題があるまたは 500m より長いかつ取付に課題がない場合は○、500m より長いかつ取付に課題がある場合は△として評価を行う。

- ◎：搬入道路の延長が 500m 以下かつ搬入道路取付に課題なし
- ：500m 以下かつ搬入道路取付に課題あり、または、500m より長いかつ搬入道路取付に課題なし
- △：500m より長いかつ搬入道路取付に課題あり

(4) 幹線道路

最終処分場にアクセスする幹線道路について、現地踏査を行ったうえで、周囲の支障物の有無や信号機の必要性、拡幅整備の必要性等から、整備上の課題有無を整理し評価する。課題がないものを◎、課題が少ないものを○、課題が多いものを△として評価を行う。

- ◎：幹線道路における整備において課題がない
- ：幹線道路における整備において課題が少ない
- △：幹線道路における整備において課題が多い

(5) 施工性

建設工事において、工事期間が長くなる、あるいは難易度が高い施工となる要因（軟弱層への地盤改良の必要性等）があるかについて評価する。課題がないものを◎、課題が少ないものを○、課題が多いものを△として評価を行う。

- ◎：建設工事での施工性について課題がない
- ：建設工事での施工性について課題が少ない
- △：建設工事での施工性について課題が多い

(6) 埋立容量の確保

膨大な災害廃棄物の発生等による埋立処分量の増加等に備え、余力の確保が望まれることから、概略施設配置図に基づき、候補地における埋立容量の確保の容易性や候補地内における埋立地周辺の敷地状況について評価する。

埋立容量の確保が容易であり、非常時には埋立地周辺の利用も可能なものを◎、埋立容量の確保が容易であるが、埋立地周辺に余裕がないものを○、埋立容量の確保が容易ではなく、工夫が必要なものを△として評価を行う。

- ◎：埋立容量の確保が容易であり、非常時には候補地内における埋立地周辺の利用も可能である
- ：埋立容量の確保が容易であるが、候補地内における埋立地周辺にはそれほど余裕はない
- △：埋立容量の確保には工夫が必要である

3.3 経済性

(1) 概算工事費

概略施設配置図に基づき概算工事費を算出し、埋立容量 1m³ 当たりの工事費を評価する。評価にあたっては、「日向東臼杵広域連合最終処分場施設整備方針」（日向東臼杵広域連合 R2.10）において示した次期最終処分場の埋立容量 1m³ 当たりの工事費を目安とした。

- ◎：埋立容量 1m³ 当たりの工事費が 3 万円以下
- ：埋立容量 1m³ 当たりの工事費が 3 万円より大きく 5 万円以下
- △：埋立容量 1m³ 当たりの工事費が 5 万円より大きい

(2) 用地取得費

概略施設配置図に基づき算出した敷地面積より、用地の取得に必要な金額を評価する。各候補地の評価結果から相対的に評価を行い、用地取得費が比較的安価な場合に◎、同等程度は○、高額な場合は△として評価する。

- ◎：他の候補地と比較して、用地取得費が安価
- ：他の候補地と比較して、用地取得費が同等程度
- △：他の候補地と比較して、用地取得費が高額

(3) 事業費リスク

今後の計画・設計において事業費が増加するリスクについて評価する。今後、詳細な調査・検討を行わないと把握できないが、地盤改良や法面对策等の事業費が増加する可能性について評価する。

- ◎：事業費が増加するリスクは現段階ではない
- ：事業費が増加するリスクがあるが、軽微なものである
- △：事業費が増加するリスクがあり、その影響が大きい

3.4 用地取得の見込み

用地取得について、候補地の地権者数等に基づき評価を行う。地権者が多いと用地交渉に時間がかかる等、用地取得に課題が多く想定され、事業の進捗にも影響を生じかねない。そのため、課題がないものを◎、課題が少ないものを○、課題が多いものを△として評価を行う。

- ◎：用地取得において課題がない
- ：用地取得において課題が少ない
- △：用地取得において課題が多い

表 2 三次選定の評価項目と評価基準

分類	三次選定項目	評価基準
立地特性	運搬距離	◎：候補地まで 20km 以下 ○：候補地まで 20km より大きく 35km 未満 △：候補地まで 35km 以上
	積雪	◎：候補地の垂直積雪量が 0.15m 以下である ○：候補地の垂直積雪量が 0.15m より大きく、0.25m 以下である △：候補地の垂直積雪量が 0.25m より大きい
自然環境	植生自然度	◎：植生自然度が 1～3 である ○：植生自然度が 4～6 である △：植生自然度が 7～10 である
	希少野生動物・植物	◎：該当しない ○： — △：該当する
社会・生活環境	土地利用状況	◎：山地、荒地、空地、林地 ○：田畑 △：その他、建設に支障がある建造物が存在する
	農業振興地域	◎：候補地内に指定区域がない ○：候補地内に指定区域が一部該当する △：候補地内の全範囲が指定区域に該当する
	公共施設	◎：公共施設から候補地までの距離が 600m 以上 ○：公共施設から候補地までの距離が 300m 以上～600m 未満 △：公共施設から候補地までの距離が 300m 未満
	周辺民家	◎：民家から候補地までの距離が 600m 以上 ○：民家から候補地までの距離が 300m 以上～600m 未満 △：民家から候補地までの距離が 300m 未満
	水道水源	◎：候補地の下流 1km 以上 ○：候補地の下流 500m より大きく 1km 未満に存在する △：候補地の下流 500m 以内に存在する
防災	土砂災害警戒区域等	◎：候補地内に指定区域がない ○：候補地内に指定区域が一部該当する △：候補地内の全範囲が指定区域に該当する
	浸水想定区域	◎：候補地内に指定区域がない ○：候補地内に指定区域が一部該当する △：候補地内の全範囲が指定区域に該当する

分類	三次選定項目	評価基準
建設適性	造成の難易度	◎：処分場の造成において課題がない ○：処分場の造成において課題が少ない △：処分場の造成において課題が多い
	地質	◎：施設建設において課題がない ○：施設建設において課題が少ない △：施設建設において課題が多い
	搬入道路	◎：搬入道路の延長が 500m 以下かつ搬入道路取付に課題なし ○：500m 以下かつ搬入道路取付に課題あり、または、500m より長い かつ搬入道路取付に課題なし △：500m より長いかつ搬入道路取付に課題あり
	幹線道路	◎：幹線道路における整備において課題がない ○：幹線道路における整備において課題が少ない △：幹線道路における整備において課題が多い
	施工性	◎：建設工事での施工性について課題がない ○：建設工事での施工性について課題が少ない △：建設工事での施工性について課題が多い
	埋立容量の確保	◎：埋立容量の確保が容易であり、非常時には候補地内における埋立地周辺の利用も可能である ○：埋立容量の確保が容易であるが、候補地内における埋立地周辺にはそれほど余裕はない △：埋立容量の確保には工夫が必要である
	経済性	概算工事費
用地取得費		◎：他の候補地と比較して、用地取得費が安価 ○：他の候補地と比較して、用地取得費が同等程度 △：他の候補地と比較して、用地取得費が高額
事業費リスク		◎：事業費が増加するリスクは現段階ではない ○：事業費が増加するリスクがあるが、軽微なものである △：事業費が増加するリスクがあり、その影響が大きい
用地取得の見込み		◎：用地取得において課題がない ○：用地取得において課題が少ない △：用地取得において課題が多い

4. 三次選定の評価方法（案）

4.1 評価項目の重みづけ

三次選定は、評価項目の重要度が反映されるように、評価項目の重みづけを行ったうえで、各評価項目の評価結果を点数化し総合的に判断する。重みづけは以下の手順に沿って行う。

- ① 各評価項目の基本点を5点とする。
- ② 各評価項目のうち、重要度の高い項目を選定し、重みづけを行う。
- ③ 重みづけは①の評価点数に2を乗じて算定する。

表 3 三次選定において重要度を高くする項目（案）

分類	項目	重みづけ理由
社会・生活環境	公共施設	公共施設に集まる住民の生活環境を十分に確保することは重要性が高い。
	周辺民家	周辺住民の生活環境を十分に確保することは重要性が高い。
	水道水源	水道水源への影響に対する住民不安を解消することは、生活環境への配慮を十分に確保するうえで重要性が高い。
建設適性	造成の難易度	処分場の造成における技術的難易度を適切に評価することは、事業の実現性・安全性・効率性の確保に大きく寄与することから重要性が高い。
	地質	地質・地盤リスクを適切に評価することは、事業の実現性・安全性・効率性の確保に大きく寄与することから重要性が高い。
経済性	概算工事費	人口減少の状況下において、財政に大きな負担をかけないことは、健全で持続可能な財政運営を図るうえで重要性が高い。
用地取得の見込み	用地取得の見込み	用地の取得交渉が難航し長期化すると、事業の着手が遅延することになる。過去の選定経緯や埋立容量の逼迫状況も踏まえると重要性が高い。

4.2 三次選定の点数配分

上記の基準に基づき、各分類・項目に点数配分を行った結果を表3に示す。

合計点数が高い順に候補地を選定し、3箇所程度を三次候補地として選定する。

表 4 三次選定の配点（案）

分類	項目	基本 点 (a)	重みづ け係数 (b)	配点 (a×b)			計	
				◎	○	△		
立地条件	運搬距離	5	1	5点	5点	3点	1点	10点
	積雪	5	1	5点	5点	3点	1点	
自然環境	植生自然度	5	1	5点	5点	3点	1点	10点
	希少野生動物・植物	5	1	5点	5点	3点	1点	
社会・生活 環境	土地利用状況	5	1	5点	5点	3点	1点	40点
	農業振興地域	5	1	5点	5点	3点	1点	
	公共施設	5	2	10点	10点	6点	2点	
	周辺民家	5	2	10点	10点	6点	2点	
	水道水源	5	2	10点	10点	6点	2点	
防災	土砂災害警戒区域等	5	1	5点	5点	3点	1点	10点
	浸水想定区域	5	1	5点	5点	3点	1点	
建設適性	造成の難易度	5	2	10点	10点	6点	2点	40点
	地質	5	2	10点	10点	6点	2点	
	搬入道路	5	1	5点	5点	3点	1点	
	幹線道路	5	1	5点	5点	3点	1点	
	施工性	5	1	5点	5点	3点	1点	
	埋立容量の確保	5	1	5点	5点	3点	1点	
経済性	概算工事費	5	2	10点	10点	6点	2点	20点
	用地取得費	5	1	5点	5点	3点	1点	
	事業費増リスク	5	1	5点	5点	3点	1点	
用地取得 の見込み	用地取得の見込み	5	2	10点	10点	6点	2点	10点
		合計						140点